

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 27 日

星置	中学校
手稲北	小学校
星置東	小学校

1 星置中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	達成状況	自己評価・改善方策			学校関係者評価	
				星置中	手稲北小	星置東小	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自己の表現	みんながみんなの中で自由に自分らしく生きられる人	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.31であった。校内研究のテーマを学校教育目標に沿った形にすることで、教員一人一人が目指す子ども像を意識して指導にあたることのできたと考える。今後も生徒が自分らしく自己表現する姿を目指す。	【自己評価 A】 年3回の悩み・いじめアンケートからの聞き取り調査、シャボテンログを利用した健康観察など充実した学校生活を送るために自分の感じたことや考えたことを表現できるような体制を作っている。困っていることなどを誰かに伝えることができ、自分らしく学校生活を送ることができるようにしている。	【自己評価 A】 挨拶を切り口に自己表現を評価すると、教員の肯定的回答が85%、児童が90%で子どもの自己評価がとて高くなっている。大人の挨拶に込めることで子どもは満足しているが、今後は「自分から進んで」実践できるように関わってきたい。	A	A
人間尊重の教育	相互承認の感度を高める	・子どもの自己肯定感を育てる学年・学級経営	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.43であった。全国学力・学習状況調査の質問紙調査から「自分には良いところがある」に対する肯定的な回答が88%と高い水準であり、また、学校評価アンケートから「学校行事終了後、互いの頑張りを認め合えることが多い」への肯定的な回答も90%以上であることから、比較的多くの生徒が自身や他者に対して肯定的にとらえられていると判断できる。今後も自他共に大切にできるような人間教育に努める。	【自己評価 A】 児童の約8割が自分のよさに気付いている。教職員も保護者も同様の評価となっている。学校では、学びに向かう姿勢、粘り強さの大切さを子どもたちに伝えていき更に自己肯定感を高められるよう関わっていく。保護者にも子どもの良さについて発信し、家庭でも子どもの良さと直すべき部分を適切に伝えるように促していく。	【自己評価 A】 教員の自己評価では肯定的な回答が89%であった。保護者・児童のアンケートでもよい結果が出ており、様々な活動を通して自分のよさを実感したり仲間と認め合う機会が確保されていると評価できる。また、今年度より年1回の自尊感情調査を導入し、通常のアンケートでは読み取りきれない一人一人の心の状態を把握するようにした。	A	A
「学ぶ力」の育成	主体的に学ぶ力の育成	・課題探究的な学習の充実 ・基本的な学習ルールの定着に向けた取組	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.06だった。生徒が主体的に取り組む実践を行うことはある程度できたと考えるが、学校評価アンケートの結果をみると、基礎基本が身に付いているかについて、生徒、保護者の肯定的な回答は、例年のことではあるが7割程度にとどまっている。今後も生徒自ら主体的に学習に取り組む姿勢を維持できるよう努めながら、学力の向上を図れる取組との両立を目指す。	【自己評価 A】 発表したり意見を聞いたりすることができているという児童が多い。グループでの対話が学びを深められるという実感が浸透してきたので今後もコミュニケーション能力を高めていくためにも学習場面で取り入れていく。基礎・基本を定着させる取組と学び合いの楽しさが実感できる取組の両輪で日々の授業を充実させていく。宿題・家庭学習の取組について、定着させていくのでよりよい取組に挑戦していきけるよう声掛けをしていく。	【自己評価 A】 主体的な学習態度について、教員の自己評価では肯定的な回答が92.5%であった。児童アンケートの自己評価も高く、授業の中での学習では主体的に学ぶ力が一定程度育ってきていると言える。しかし、保護者アンケートでは肯定的な回答が70%であり、学校での取組が家庭学習に十分に生かされていないことや、保護者への理解が浸透していないことが考えられるので、次年度の課題としたい。	A	A
「豊かな心」の育成	思いやる心と笑顔で感謝の気持ちを持ち、自他を尊重する心の育成	・相手意識や思いやりの心を育む教育活動 ・いじめの防止や命を大切にすることの推進	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.31だった。学校評価アンケートのいじめに関する内容では、95%以上の生徒が「許されないものである」と認識できており、「日常生活で相手のことを考えて行動している」に対して肯定的な回答する生徒も多い。ただ、認識と実際表出する言動がずれる生徒も少なからずいるため、今後も生徒の情操、道徳性、道徳的行動力を育む教育に努める。	【自己評価 A】 進んで挨拶をしよう意識している児童が若干減少している。元気の挨拶だけではなく、その場に応じた挨拶もできるようにしていきたい。適切な言葉遣いを意識している児童も若干減少傾向。教職員も子どものお手本として挨拶・言葉遣いを意識して、思いやりのある雰囲気を作っていきたい。年3回の聞き取り、経過観察と意識して取り組んでいる。今後も道徳等の学習を通じていじめ防止、命の大切さを意識できる教育を推進していく。	【自己評価 A】 いじめ防止に関わる項目について、教員の肯定的回答96%、保護者93%であった。学校での様々な対策について有る程度の理解をいただけたと考える。ただ、児童は75%でやや低い結果となった。「いじめはいけない」という意識はあっても積極的に止めたり相談したりすることに対してはまだ抵抗があると思われる。5年生では新しい取組としてお互いの気持ちを理解し合い、よりよい関係を築くための学習プログラムを作成・実践している。	A	B
「健やかな体」の育成	体力・運動能力の向上への意欲・関心を高める	・休み時間の運動の推進 ・各校の特色を生かした運動の推進 ・食育に関する指導の連携	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.12だった。学校評価アンケートをかまえると、70%～80%の生徒が授業や部活動以外にも自ら運動しようとしている。昼休みに体育館やグラウンドで楽しく体を動かしている生徒が多く見られ、運動に対して前向きに取り組む生徒が多いと思われる。スポーツレクリエーション部という本校独自の部活動もあり、様々な運動を楽しみたい生徒の拠り所となっている。今後も生徒の体力の向上、健やかな体づくりに向けての指導の工夫に努める。	【自己評価 A】 全体では、体を動かすことが好きという児童が80%以上いる。しかし、体を動かすことに意欲的ではない児童もいるので休み時間のパワーアップタイム(全員遊び)の活動を充実させるなどして日常的に体を動かすことを啓発してきた。運用の仕方について共通理解をしながら体を動かすことを自然と楽しむ気持ちを育てていきたい。育てた作物を持ち帰ったり本校の伝統であるすいかを全校で食べたりすることが食の喜びと大切さの実感につながっている。今後は地域性を生かした食指導を進めていく。今の時代に合った給食指導を行い食べる喜びと楽しさを感じられる指導をしていく。	【自己評価 A】 教員の肯定的回答89%、児童は85%であった。体育の授業や休み時間に体を動かすことを楽しみ、運動に親しもうとする意識が育ちつつあることがうかがえる。一方で保護者の肯定的回答は76%でやや低く、放課後や休日にはそれほど体を動かしていない実態も浮き上がった。学校での取組を家庭と共有しながら、年間を通じて様々な場面で運動を楽しむ子どもたちを育成していきたい。	A	A
一貫性・連続性のある教育(小中一貫した教育)	CSの効果的な利用を目指す	・パートナー校との共同体制の確立 ・地域学校協働活動の有効活用 ・グラウンドデザインに基づいた実施、評価、見直し	A	【自己評価 A】 教員の自己評価では5点中平均値が3.0だった。パートナー校とは、札教研の集いや校内研修、小学6年生に対する説明など、連携をとって有意義な取組ができた。また、キャリア教育に関する指導を主に地域学校協働活動を活用することができた。しかしながら、主に携わる教員が一部に限られていることが、自己評価がそれほど上がらない要素になっていると考える。今後は取組内容を精査しつつ、効果的な教育になるよう努める。	【自己評価 B】 CSでは、コーディネーターの方が中心となり小中の連携がスムーズに行われたと感じている。各小学校生に対する説明など、連携を深めた活動となった。次年度も、教職員全体の周知をして連携の大切さを伝えていく中でより充実した取組みとなるようにパートナー校と連携していきたい。	【自己評価 A】 スキーマのインストラクターの活用については、安全確保、指導内容の充実の観点から教員からも保護者からも高評価であった。6年生の中学校訪問も、卒業・進学へ向けた意識を高める上でも大変効果的であった。今後は、今年度初めて行った教員・保護者合同の研修会をパートナー校全体へ広げると、「よいものはどんどん共有する」というスタンスで小中一貫・CSの活動を活性化していきたい。	A	A

2 各学校における学校関係者評価

星置中学校	小中一貫した事業の円滑な実施に向けた中心的役割を担い、事業を充実させるよう努める。	A	夏季休業中に小学生部活動見学、2学期に星置東小、手稲北小、両校の6年生による中学校授業見学、中学校生活についての説明会を実施し、児童に中学校生活に向けての目標をもたせられるよう努めることができた。	A	B
手稲北小学校	農園活動「むぎわらぼうし」を核に子どもたちに本物の経験を与える教育活動の推進	A	すいか栽培を中心として、どの学年も栽培活動を行ってきた。栽培を通して地域との関わり、人とつながることの大切さ、主体性をもった学び、食と命への関心喚起等、心と体と学びの健やかな成長を目指すことで、自己肯定感を高めることができた。	A	B
星置東小学校	子どもの主体性や自己有用感を高める異学年交流(かがやき活動、師匠・弟子)の推進	A	児童アンケートの結果から、子どもの主体性や自己有用感、自己肯定感の高まりが読み取れる。師匠・弟子の交流は体育大会の取組を中心に大切にされているが、今後はそのほかの様々な活動でも、異学年の交流、子ども同士への支え合いを充実させていきたい。	A	A

3 学校関係者評価委員会(学校運営協議会)による意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価書を、パートナー校で共有し、併記した形で作成したことは他地区のCSにも広めていきたい。 ・表記の部分では、達成状況についての考察は記載されているが、一部改善方策に触れていない箇所があったので、次年度以降、改善方法について具体的な記載があるとよい。 ・星置東小学校で取り組んだ「保護者合同の研修会」など、よい取組があるので、今後どのように参加者を増やしていくか、パートナー校に広めていかなど検討してほしい。 ・星置中学校区CSの取組は、流れができつつあり、大変進んでいると感じられるので、今後も継続して取り組んでほしい。
--